

## パソコン決裁 6 Extension Kit で新しく導入された機能について

この文章には、パソコン決裁 6 Extension Kit で新しく追加された機能および既存機能から改良された点について説明されています。

### 1 パソコン決裁 6 Extension Kit の概要

パソコン決裁 6 Extension Kit は、パソコン決裁の機能をプログラム上から制御を行う開発者用の製品になります。製品をご利用いただくことで、パソコン決裁 捺印プログラムを外部から制御して捺印操作を行ったり、パソコン決裁で取り扱われる、グループ、ユーザといった情報を編集することができます。

### 2 提供されるコンポーネント

パソコン決裁 6 Extension Kit では次のモジュールが提供されます。

名称	形式	用途
捺印ツール Extension	EXE 形式 OLE コンポーネント	OLE オートメーションサーバとして動作し、VB、C#などの開発言語や VBScript などのスクリプトから捺印ツール（ログイン操作や電子印鑑オブジェクトの生成などの）でユーザが行う操作を外部プログラムからの制御ができます。
電子印鑑 Extension	COM コンポーネント	COM コンポーネントとして動作し、VB、C#などの開発言語や VBScript などのスクリプトからパソコン決裁で取り扱われるファイルにアクセスし、ユーザや電子印鑑の設定を変更することができます。
電子印鑑 XML Extension パソコン決裁 6 Extension Kit で新しく追加されました	COM コンポーネント	COM コンポーネントとして動作し、VB、C#などの開発言語や VBScript などのスクリプトからパソコン決裁のグループやユーザ情報を XML 形式で取得することができます。
電子印鑑コントロール	ActiveX コントロール	ActiveX コントロールとして動作し、専用の ESD 形式で出力された電子印影情報をコントロール上で再現します。また OLE オブジェクトのようにプロパティ情報を表示することもできます。

#### 2.1 コンポーネントの利用例

提供されるコンポーネントは、ほとんどが COM コンポーネントとして提供されていますので、簡単にスクリプトなどから呼び出し利用することができます。

捺印用印鑑データファイルに追加されているユーザの一覧を出力するサンプル（VBScript）

```
Dim objDstmpLib
Set objDstmpLib = CreateObject("DstmpLib.StmpDat")      '電子印鑑 Extension オブジェクト作成
'参照する捺印用印鑑データファイルを開く
if objDstmpLib.SF_DsmOpen("<参照する捺印用印鑑データファイルの場所>", "<開くパスワード>") == 1 then
  do while objDstmpLib.SF_IsEOF() = False
    msgbox objDstmpLib.SF_GetCurrentUserName()           'ユーザ名を取得
    objDstmpLib.SF_MoveNext(0)                           '次のユーザへ移動
  loop
  objDstmpLib.SF_DsmClose()                             '捺印用印鑑データファイルを閉じる
end if
Set objDstmpLib = Nothing
```

### 3 新しく導入されたコンポーネント

パソコン決裁 6 Extension Kit では以前のバージョンで用意されていたコンポーネントに加えて、捺印用印鑑データファイル内のグループやユーザを XML 形式で取得するための専用コンポーネント電子印鑑 XML Extension が新しく追加されました。

#### 電子印鑑 XML Extension の XML データの取得例

パソコン決裁で取り扱われるグループやユーザを管理している捺印用印鑑データファイル内のグループとユーザの関係が階層構造になった XML ソースを取得することができます。インターネットアプリケーションなどで、グループとユーザに関連する階層構造を利用する場合に活用することができます。

#### 実際の捺印用印鑑データファイル内のグループとユーザの関連図



#### 電子印鑑 XML Extension から取得される XML ソース

```
<?xml version="1.0" ?>
<dstmpfile>
  <root name="" description="" id="123456789" position="1">
    <group name="GroupA" id="10000000" description="" type="0" position="2">
      <user name="User1" id="00000001" type="0" lastname="sample" firstname="user1" email="user1@sample.com" ... />
      <user name="User2" id="00000002" type="0" lastname="sample" firstname="user2" email="user2@sample.com" ... />
    </group>
    <group name="GroupB" id="20000000" description="" type="0" position="3">
      <user name="User3" id="00000003" type="0" lastname="sample" firstname="user3" email="user3@sample.com" ... />
    </group>
  </root>
</dstmpfile>
```

## 4 新しく追加されたメソッドとプロパティ

各コンポーネントにパソコン決裁 6 で新しく追加されたプロパティ情報へアクセスするメソッドが追加されました。現在の設定を確認したり編集を行うことができます。

### 4.1 [電子メールアドレス] プロパティ

パソコン決裁 6 では新しくユーザの属性値として電子メールアドレスを格納するプロパティ設定が追加されました。このプロパティへのアクセスを行うメソッドが追加されています。

例：SU\_GetUserEmailAddress メソッド、SU\_SetUserEmailAddress メソッドなど

### 4.2 [ユーザを無効にする] プロパティ

パソコン決裁 6 では、ユーザを一時的に無効にする新しいプロパティ値が追加されました。このプロパティへのアクセスを行うメソッドが追加されています。

例：SU\_GetUserEnableStatus メソッド、SU\_SetUserEnableStatus メソッド

### 4.3 [Windows 認証] プロパティ

パソコン決裁 6 では、Windows のアカウント情報を利用した新しい認証方法が追加されました。この関連プロパティへのアクセスを行うメソッドが追加されています。

例：SU\_GetWindowsAccount メソッド、SU\_SetWindowAccount メソッド

### 4.4 [印面の角度] プロパティ

パソコン決裁 6 では捺印時に印面の角度を設定する機能が追加されました、この関連プロパティへのアクセスを行うメソッド・プロパティが追加されています。

例：SD\_GetStampAngle メソッド、SD\_SetStampAngle メソッド

## 5 改良されたメソッドとプロパティ

以前のバージョンで用意されていたメソッドに次のような改良が加えられました。

### 5.1 ログイン関連メソッド

パソコン決裁 6 では、Windows のアカウント情報を利用した新しい認証方法が追加されました。これに伴い従来のログイン関連のメソッドのパラメータを変更することにより、Windows 認証でのログインに対応することができます。

例：Login メソッド

<オブジェクト>.Login("パソコン決裁のユーザ名:UserName1","パソコン決裁のパスワード")

ユーザ名を指定する引数に\記号が無い場合には、通常のパソコン決裁認証を行います。

<オブジェクト>.Login("Windows のアカウント名:domain\account","Windows のパスワード")

引数に\記号で区切った文字列を指定した場合には Windows 認証でログインします。

### 5.2 ESD 関連の取り扱いメソッド

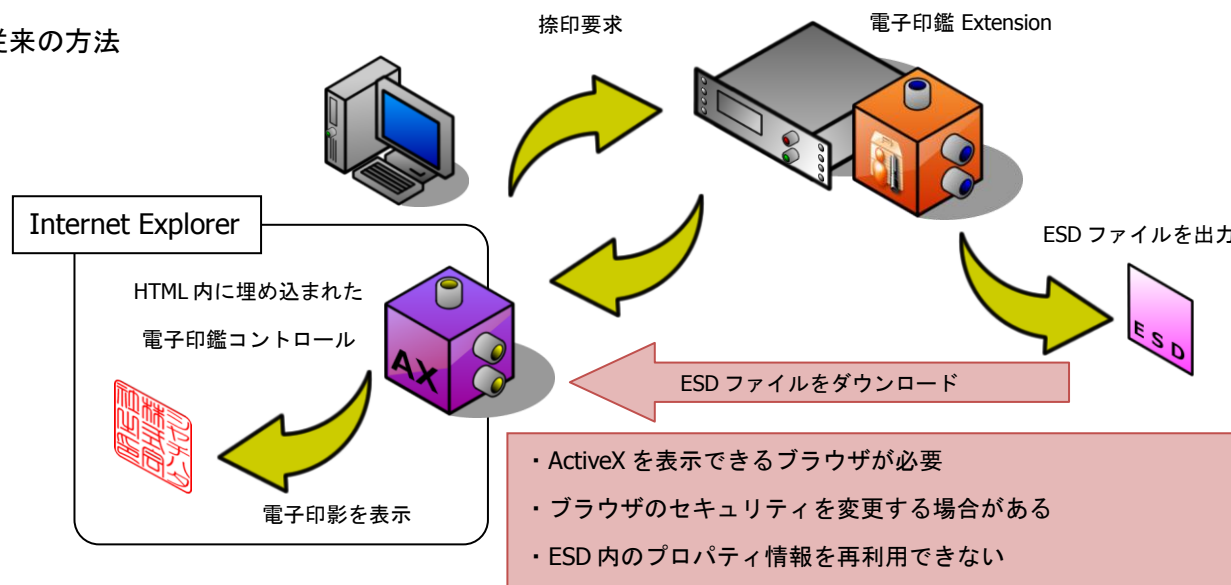
パソコン決裁 5 Extension Kit までは、電子印鑑 Extension から出力された ESD ファイルは電子印鑑コントロールでのみ表示可能であり、そのプロパティ表示についても電子印鑑コントロールに依存していました。さらに、電子印鑑コントロールは ActiveX コントロールとして構成されているためインターネットブラウザやセキュリティなどの考慮する点がいくつか存在しました。パソコン決裁 6 Extension Kit では電子印鑑 Extension に ESD ファイルの読み込みと画像形式への際出力および ESD データ内のプロパティ情

報を取得する関連メソッドが追加されました。これによりインターネットアプリケーションで電子印鑑コントロールに依存しない、ESD データを利用した電子印鑑の表示が可能になります。詳細は「[6.ESD ファイルを利用したインターネットアプリケーションによる電子印鑑の実装例]」をご参照ください。

## 6 ESD ファイルを利用したインターネットアプリケーションによる電子印鑑の実装例

以前のバージョンでは、インターネットブラウザをユーザインタフェースとして利用するインターネットアプリケーションで電子印鑑の表示などを行う場合には、電子印鑑 Extension から出力された ESD ファイルと電子印鑑コントロールの2種類のモジュールを利用して作成されるのが一般的でした。

### 従来の方法



### 新しく追加された ESD 関連のメソッドを利用した方法

